

茨城県看護協会の優良看護職員表彰

療養病棟 山中 久美子 師長

6月20日に開かれた茨城県看護協会の総会で、優良看護職員として表彰されました。「表彰を受けると聞いたとき、最初は私でいいのかと思いました。評価に見合う人間になりなさいということだと思い、賞状をいただきました」と語ります。

23歳の時、看護師になりたいと学校の門をくぐり、4年間勉強して資格を取得しました。高校を卒業して企業の事務職として働いていましたが、「小学校の時に看護師になりたい」という夢を思い起こしたと語ります。

小学生の時は祖父母と同居。祖父が寝たきりとなり、家で看取りましたが、終末期は祖母や母が徹夜の看病をしていました。その姿を見て、「自分が何かできればいいのに」と感じたのが、看護の道に進むきっかけになったと語ります。

27歳で念願の看護師となりました。しかし、「最初は仕事の流れが自分に合わせられないという戸惑いがありました」と振り返ります。でも今は、「患者さんに、退院の時にわざわざ感謝の言葉を言ってもらえるのがうれしい。家族

表彰に見合う看護師に



からも『本当によくしてもらった』と言われた時、日常の中でもそんな言葉をかけられると、努力が報われたと思います」と笑みをこぼします。

一方で、幼い子供3人を育てながら、外科に配属になった時は、仕事は楽しかったが、家庭との両立は大変だったと語ります。緊急手術は常だし、家に帰るのは毎晩9時、10時。寝ている子供を起こして風呂に入れました。

その子供も、長女は医療の道に進み、長男は救命の道を目指して看護師の勉強を始めました。二女はドクターヘリのフライトナースを夢見て、学校に通っているといえます。

現在、療養病棟の師長として活躍。「今まで城西病院のすべての病棟で仕事をしてきました。療養病棟では、これまで以上に患者さんや家族と向き合うことができました。いろんな家族、人生があるとしみじみ感じています」と語ります。そして後輩には「自分が楽しく仕事ができないと、患者さんに優しくできない。もちろん、上司や家族の協力が必要です。そして、患者さんが自分にとって大切な人だと思い、接してもらいたいです」と話していました。

平成26年7月1日

